



OLYMPUS

オリンパス株式会社

会社案内

2025年4月発行（2025年12月更新）

Content / 目次

1. グローバル・メドテックカンパニーとして
2. オリンパスの事業
3. 経営戦略
4. 持続可能な社会の実現のために
5. 健やかな組織文化醸成に向けて
6. 会社情報
7. 付録:オリンパスの歴史

グローバル・
メドテックカンパニー
として






01



経営理念

Our Purpose Making people's lives healthier, safer and more fulfilling

Our Core Values

				
PATIENT FOCUS	INTEGRITY	INNOVATION	IMPACT	EMPATHY
We put patients at the heart of everything.	We do the right thing.	We look for new ways to make things better.	We take accountability and get things done.	We care for one another and work together.

1950年に世界で初めて、胃カメラの実用化に成功してから、私たちオリンパスは医療従事者の方々と共に、内視鏡医療の発展に貢献してきました。

私たちは、世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現のために、これからも医療水準の向上、そして患者さんのアウトカムの改善に貢献してまいります。

「Patient Focus（患者さん第一）」、
「Integrity（誠実）」、「Innovation（イノベーション）」、
「Impact（実行実現）」、そして「Empathy（共感）」

新たに再定義された5つのコアバリューは、私たちが患者さんの安全や品質を最優先するグローバル・メドテックカンパニーとして成長していくための指針です。

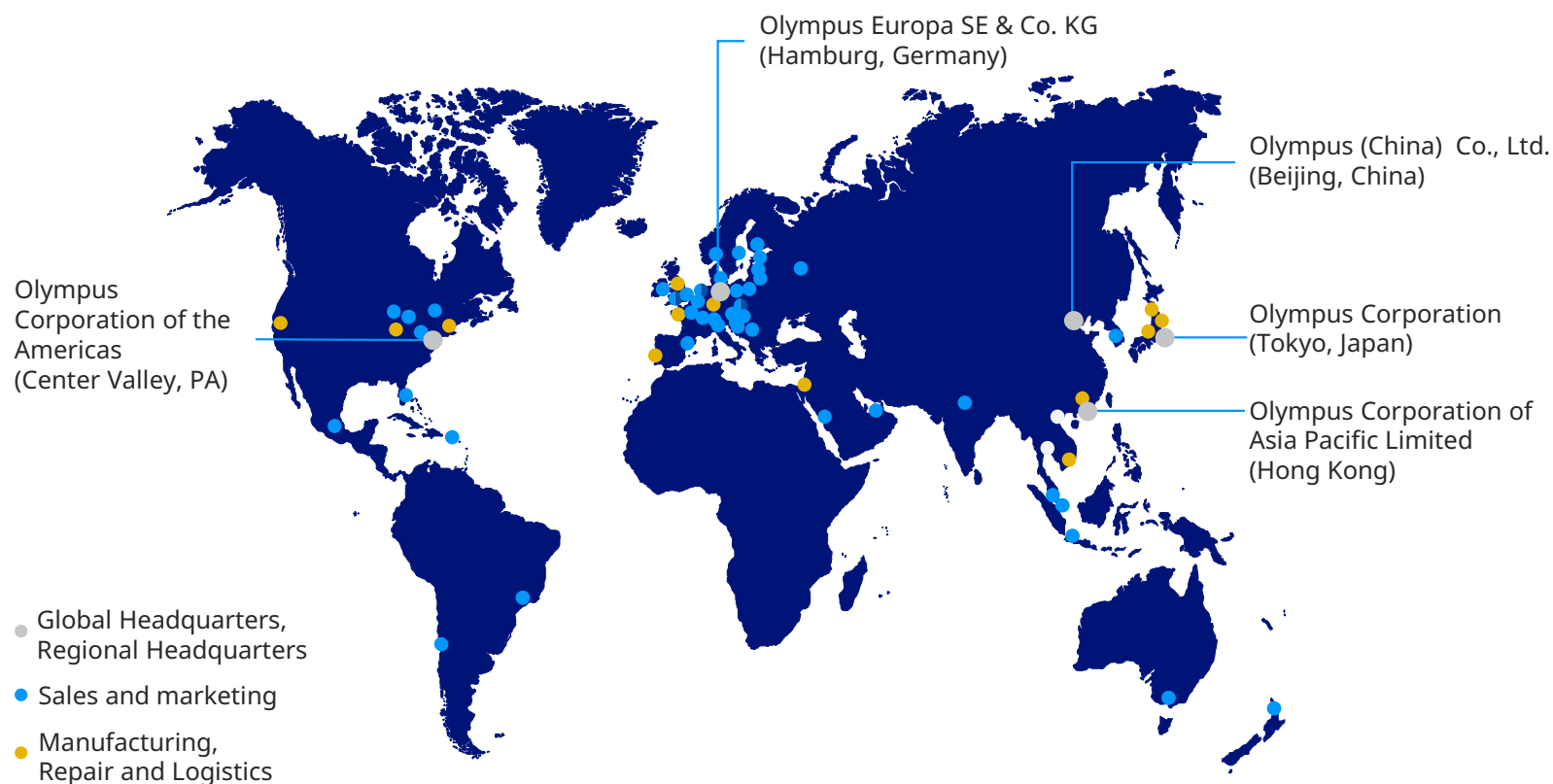


True to Life

「True to Life」は、私たちの存在意義のために尽力し続けるオリンパスの姿勢を表しているグローバルブランドメッセージです。

オリンパスは、人生を豊かに送るための機会が全ての人に与えられるべきと考えています。誰もがその一度きりの機会を最大限に生かせるように、医療技術によるソリューションを日々進歩させることで、全ての人の好奇心や向上心、夢、志を満たし、心の豊かさを実現します。

オリンパス拠点



29,297

全従業員数*

40

拠点のある国や地域*

* 2025年3月現在

患者さんへの貢献

49,000,000

大腸内視鏡件数／年*

*グローバル：米国、ドイツ、フランス、英国、イタリア、スペイン、日本、カナダ、ポーランド、韓国、オーストラリア、インド、ロシア(2022年時点)、中国（2019年時点、2019年から2022年までの予測の年間の平均値を含む）

TOP100

Global Innovator

オリンパスは、2012年から2020年にかけて、および2022年、2023年に、世界で最も革新的な企業トップ100に選ばれています

<https://clarivate.com/top-100-innovators/>

100

適応可能な疾患数

オリンパスは100*の疾患の治療に役立つ様々な医療機器を提供しています

出典：自社調査 2025年3月現在

297

Awards

オリンパスは、1966年以来、革新的なデザインに対して国内外から表彰されています*

*2025年3月現在

TOP3

罹患数の多い3つのがん

オリンパスは、罹患数の多い5つ*のがんのうち、肺がん、胃がん、大腸がんへの治療機器を提供するとともに、その他のがんの治療機器の開発も行っています

*乳がんと前立腺がんを除く、罹患数の上位3つ
Source: GLOBOCAN 2022

15,000

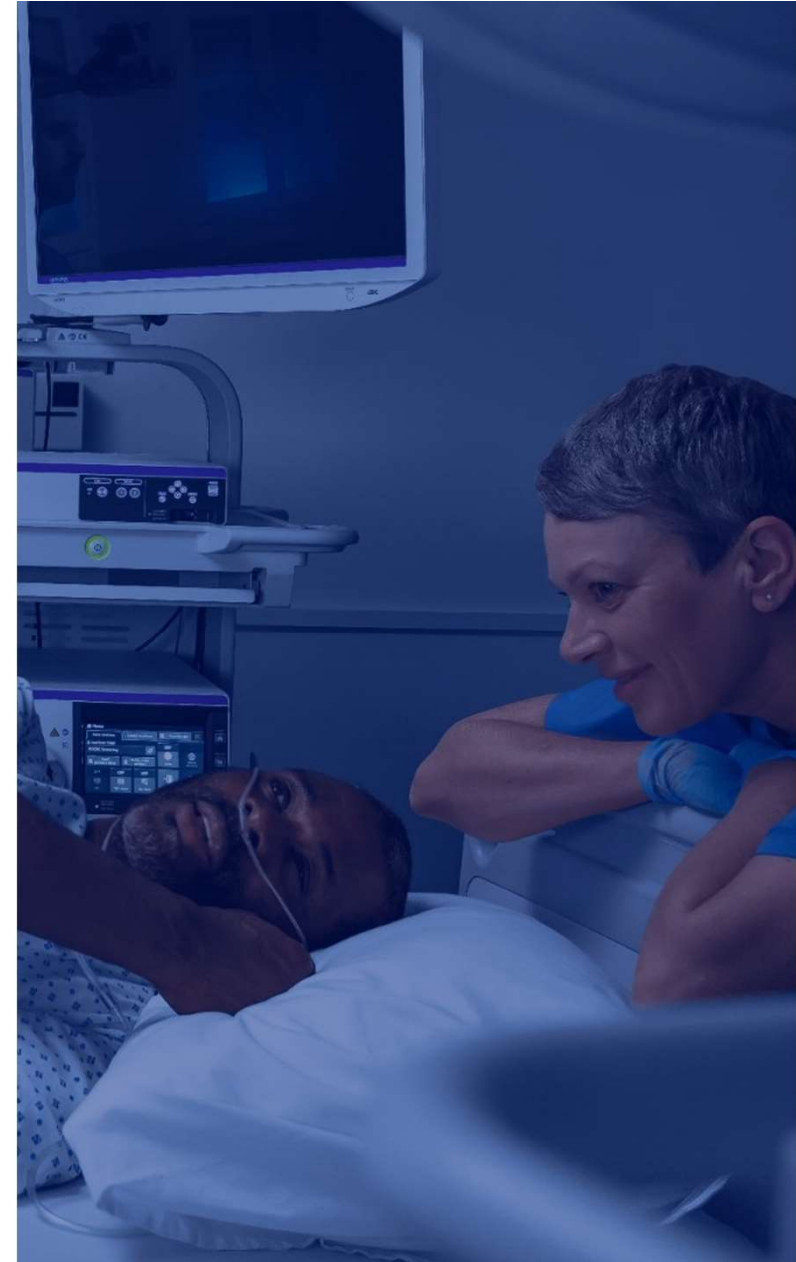
特許の保有件数*

オリンパスグループ全体（グローバル）

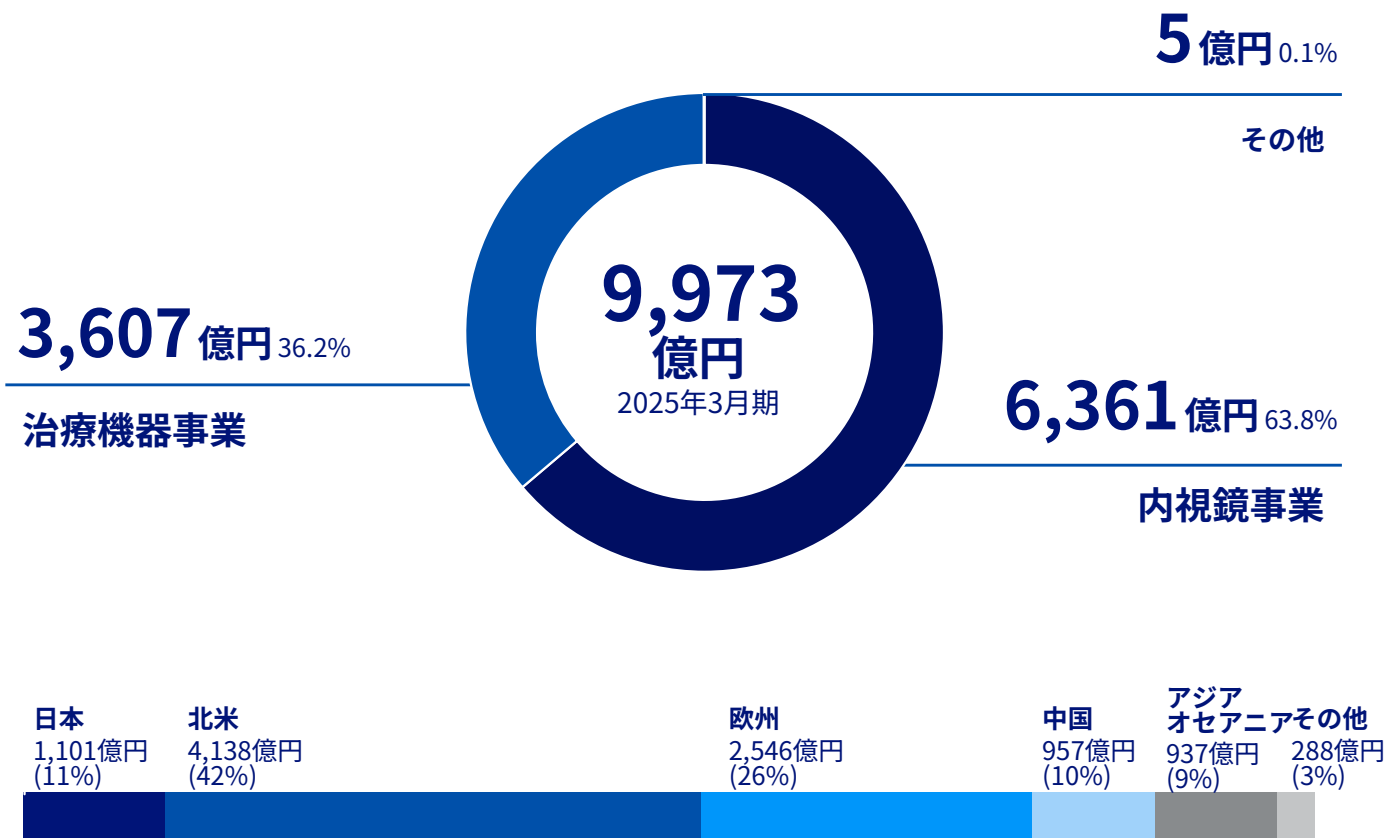
*2025年3月現在

オリンパスの事業

02

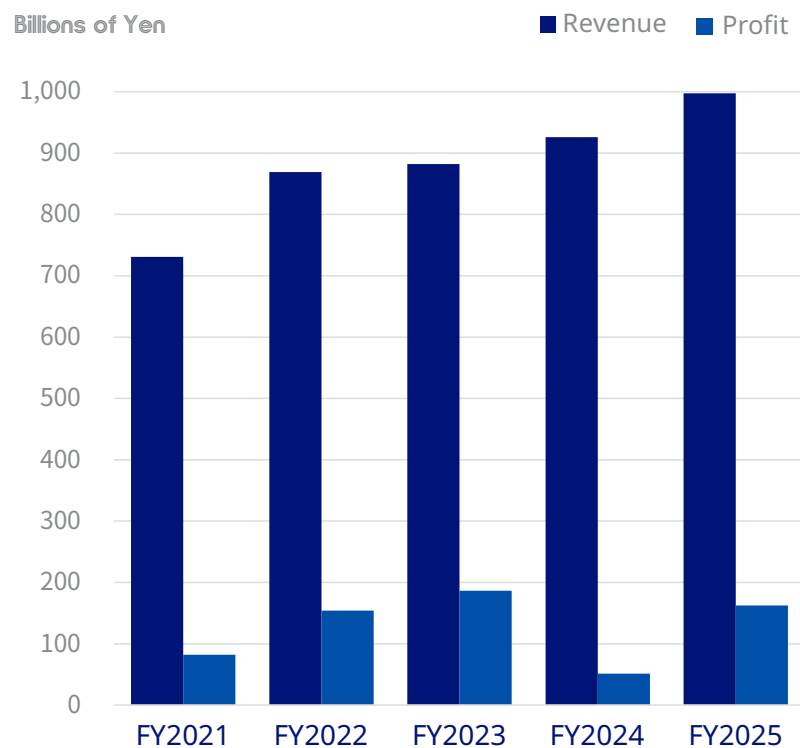


事業別・地域別売上高

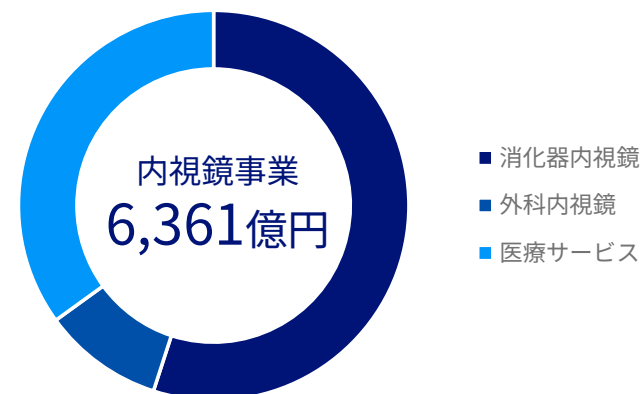


注：2025年4月より、事業部門である内視鏡事業と治療機器事業を、消化器内視鏡ソリューション事業（GIS事業）とサージカルインターベンション事業（SIS事業）の新しい部門に再編しています。四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります。

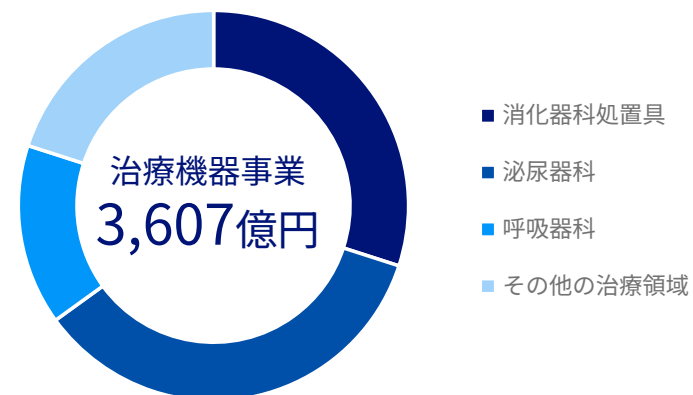
売上高・営業利益の推移



64%
内視鏡事業



36%
治療機器事業



* 四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります。

消化器内視鏡ソリューション事業

消化器内視鏡システム



消化器内視鏡ビデオスコープシステム



超音波内視鏡システム

内視鏡用処置具



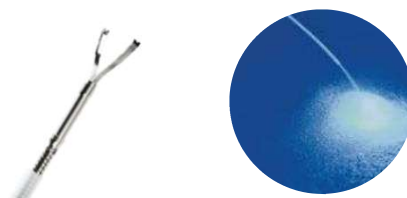
大腸内視鏡用
デバイス



高周波ナイフ



ERCPデバイス



止血デバイス

エンドスコピック・ソリューションズ・エコシステム (デジタル医療ソリューション等)



インテリジェント内視鏡医療エコシステム
オペレーティング・ソフトウェアプラットフォーム



AIによるインサイトと検出／診断支援

リプロセス



内視鏡自動洗浄消毒装置



医薬品、付属品、周辺機器

修理サービス



リペアセンター

注：2025年4月より、事業部門である 内視鏡事業と治療機器事業を、消化器内視鏡ソリューション事業（GIS事業）とサージカルインターベンション事業（SIS事業）の新しい部門に再編しています。
医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております。

サージカルインターベンション事業

呼吸器科



気管支鏡システム



気管支鏡用処置具



肺がん診断用超音波内視鏡・デバイス



COPD (慢性閉塞性肺疾患)

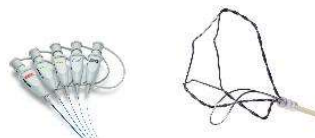
泌尿器科



イメージング技術



結石治療



前立腺肥大症
低侵襲治療デバイス



高周波手術装置

外科 (外科用内視鏡、外科用処置具、耳鼻咽喉科含む)



外科手術用内視鏡システム



エネルギーデバイス



外科用顕微鏡



手術室システムインテグレーション

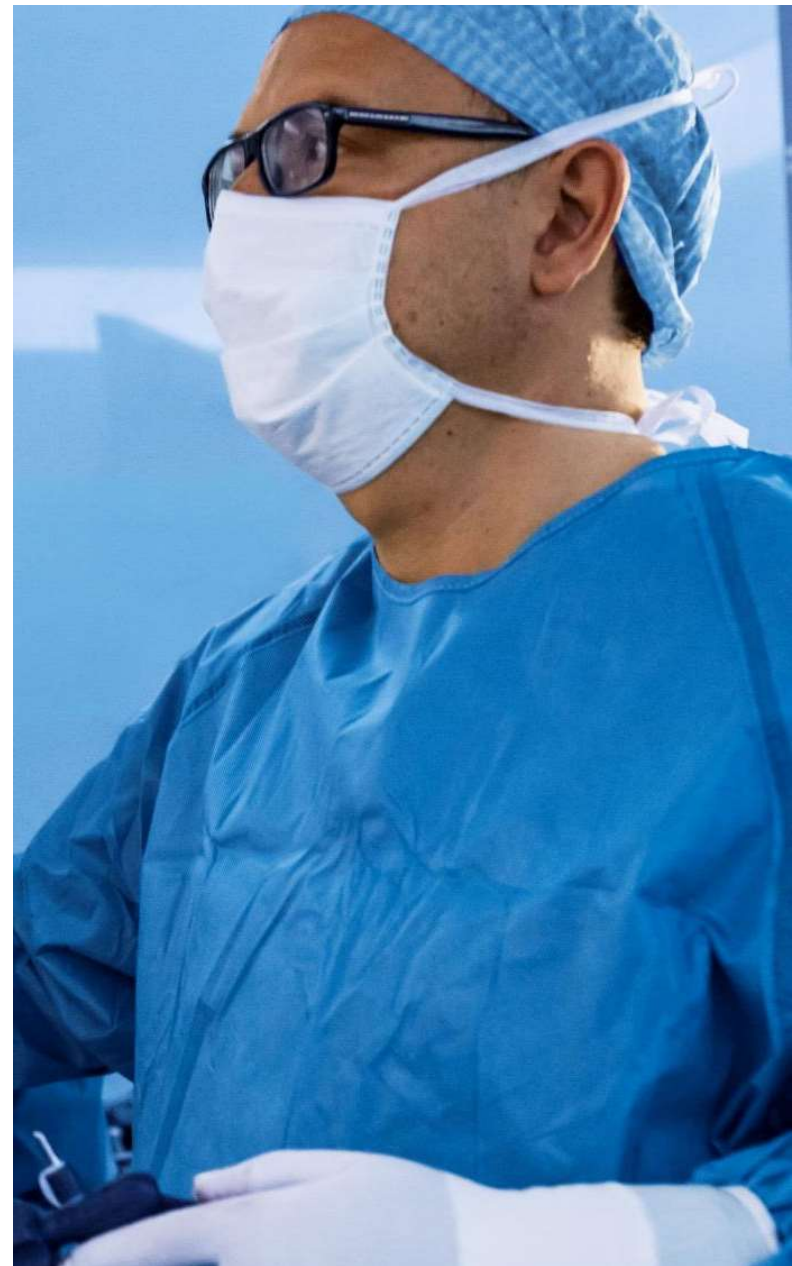


耳鼻咽喉ビデオスコープ

注：2025年4月より、事業部門である 内視鏡事業と治療機器事業を、消化器内視鏡ソリューション事業（GIS事業）とサージカルインターベンション事業（SIS事業）の新しい部門に再編しています。
医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております。

経営戦略

03



マクロ要因とより良い医療へのニーズを背景として世界的に内視鏡手技の需要が増加

世界的な需要の高まりにより、内視鏡を用いた医療は年率5%成長

- 高齢化の進展（世界人口の40%以上が60歳超）
- 消化器系、泌尿器系、肺がんの罹患率増加
- 医療アクセスの拡大

さらなる成長の機会

- 医療サービスが十分に行き届いていない地域におけるアクセスの向上
- ERCPやESDなどの確立された手技の拡大
- 侵襲性が高い治療に依存している関連分野における低侵襲手技の拡大

¹ AcuityMD, Ministries of Health, IQVIA FlexView MedTech, 当社の中国市場調査に基づくデータ

² MedTechIQVIA FlexView MedTechに基づき当社の市場分析によって算出

³ 世界全体での一人当たりの手技数が米国、欧州、日本、中国の水準に達すると仮定して当社が算出

6億件

潜在的な世界全体の内視鏡手技数³

2億件 現在の世界全体の
内視鏡手技数²

1億5500万件¹

2025年における米国、
EU5、日本、中国での
内視鏡手技数（合計）

医療のニーズと可能性に応えるための、内視鏡医療の新たなビジョン



患者さん

高度で低侵襲な内視鏡検査により、
正確性と安心感をもたらします

- 新たなテクノロジーにより、早期かつ正確な診断を可能にし、不要な組織検査を減少
- 即日で検査結果を提供することにより、不安を軽減
- より低侵襲な治療により、さらに回復期間を短縮

医療従事者

より安全、スマートで一貫性のある内視鏡検査へ

- テクノロジーにより、手作業と業務負荷を軽減
- 自動化の推進により、臨床判断や患者さんとのコミュニケーションに充てる時間を確保
- 複雑な手技における一貫性と再現性を実現
- データ管理により、患者さんに継続的なケアを提供

管理者

先進的なテクノロジーで効率化とコスト削減を
推進します

- 予知保守と適切な設備管理により、保有設備の使用可能時間（Uptime）を最大化
- シングルユースかつモジュール式のツールにより、物品管理を簡略化
- 合理的なオペレーションにより、さらなるコスト効率化と基準への準拠を確保

内視鏡医療の未来を切り拓くオリンパス



内視鏡医療を支える基盤

世界に広がる内視鏡システムという強固なインフラを通じて、拡張性と統合性を備えたワークフローを実現
お客様の保有設備の使用可能時間（Uptime）を最大化するためのサービス・サポート・トレーニングを提供



先進的な内視鏡と治療機器

幅広い治療領域および医療現場において、疾患の検出、診断、治療に対応する、多様な内視鏡および治療機器のポートフォリオ



未来を牽引するテクノロジー

AI、ロボティクス、ワークフロー管理による手技とアウトカムの最適化

エンドスイート¹の未来へ投資を加速



AIを内視鏡検査のエコシステムに統合

OLYSENSEのCAD/AIを米国および欧州の一部の国々で発売。2028年3月期までに全世界で当社の基盤製品（消化器内視鏡システム）のうち最大5%をこのプラットフォームに接続し、2031年3月期までに25%へ引き上げる計画

¹ 人工知能（AI）や他のデジタルツールや技術を活用して、患者さんが体験する医療の質を向上させ、内視鏡治療の可能性を広げることができるソリューション
（注）医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております



エンドミナルロボティクスのソリューションを構築

Swan EndoSurgicalをはじめとするパートナーシップは、より短い処置時間と合併症リスクの低減をサポートする新たな消化器医療の基準を確立する基盤を築き、治療法の普及に貢献



先進的な診断・治療のポートフォリオの拡充

疾患の検出、診断、治療を行う先進的なソリューションを開発、提携、獲得し、医療従事者に当社の臨床および疾患の重点領域におけるソリューションを提供

内視鏡医療の新たな世界



より良い医療

疾患の早期発見
診断からステージ分類、
治療までを同日に完結

低侵襲治療法の選択肢を
拡充し、外科手術への
依存を低減

より多くの疾患
の内視鏡的治療
を実現

スマートなワーク
フローによる効率
化の推進

統合されたテクノロジーにより実現

クラウド接続されたハードウェア、
デバイス、ソフトウェア、サービス
からなるエコシステムを、最先端の
光学技術、AI、ロボティクスと組み
合わせて構築

統合されたデータを活用し、
医療の様々な場面で、個別最適
化されたインサイトを提供

パーパスを原動力に成長を実現する企業として、 内視鏡医療の未来を切り拓く

私たちの存在意義
世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現

当社の戦略基盤

イノベーションによる成長

次世代イノベーションをリードし、
成長市場での事業拡大を図る

- 重点的な投資によるポートフォリオの強化
- OLYSENSE、ロボティクス技術によって内視鏡医療の未来を切り拓く
- 中国の業績向上と新興国市場での成長戦略の確立
- 関連分野におけるタックインM&Aを推進

シンプル化

オリンパスをシンプル化し、
迅速な意思決定と効率的な運営を実現

- 競争力のあるコスト基盤のもと、事業主体のスリムなオペレーティング・モデルとガバナンスを構築
- エンド・ツー・エンドのプロセスをさらに融合し、AIを活用
- 新製品の継続的かつ迅速なリリースに向けたイノベーションモデルを改善
- 強固で柔軟かつ効率的な製造・サプライチェーンを構築

責任ある行動

オーナーシップと実行力を発揮する
ハイパフォーマンス文化を浸透させる

- 患者さん第一の考え方を根付かせ、あらゆる業務プロセスに品質と安全の視点を組み込む
- ESGの取り組みを確実に遂行
- グローバルな「オリンパス・マネジメント・システム」の確立

FY27-FY29 財務ガイダンス

売上高¹

約 5 %

FY29までに前年比5%の売上成長

営業利益率²

約 100 bps

FY26を起点に毎年の利益率改善

EPS成長率²

10 %超

FY26を起点としたCAGR

¹ 為替前提を固定 ² 特殊要因調整後：その他の収益および費用を除く、為替レート変動による影響は調整せず。実際の為替レートを使用

持続可能な
社会の実現のために

04



ESGにおける課題*



Environment 環境

- 気候変動への対応
- 脱炭素・循環型社会への貢献
- 温室効果ガスの削減
- 水・廃棄物の削減



Social 社会

- 人権
- インクルージョン
- 労働環境の安全性
- 医療機会の幅広い提供およびアウトカムの向上



Governance ガバナンス

- リスクマネジメント・危機管理
- 経営体制の強化
- 情報開示の透明性

*一例のみ / すべてを網羅したものではありません

6つのESG重点領域と最優先マテリアリティ項目



医療機会の幅広い 提供および アウトカムの向上

医療アクセス及び医療
公平性改善への貢献



コンプライアンス および製品の品質 安全性への注力

製品、サービス、
ソリューションの品質と
安全性の確保



責任あるサプライ チェーンの推進

サプライチェーンの
リスク軽減と耐性の
確保



健やかな 組織文化

インクルージョンの
推進



社会と協調した脱 炭素・循環型社会 実現への貢献

プロダクト・スチュワード
シップを通じた循環型
社会の実現、脱炭素への
取り組み
(スコープ1、2、3)



コーポレート ガバナンス

コーポレートガバナンス
と情報開示の透明性の
確保

フォーカスエリア 1: 医療機会の幅広い提供およびアウトカムの向上



医療分野は、当社が最も強みを発揮できる社会貢献の領域です。より高い医療成果につながるイノベティブな製品の提供、医療従事者へのトレーニング機会の提供などを通じて社会への貢献を目指します。

重要課題（マテリアリティトピックス）

- トッププライオリティ**
- 医療アクセスおよび医療公平性改善への貢献
 - 医療公平性改善への貢献
 - 医療従事者へのトレーニング機会・技術向上機会の提供
 - 高度医療製品へのアクセス性向上に向けた取組

目標・KPI

対象の新興国・地域における
CRC*関連のトレーニング開催数： **+20%** *CRC: Colorectal cancer (大腸がん)

医療従事者を対象としたCRC*関連の
オンライン／ハイブリッド型トレーニング開催数： **+20%**

- ハイプライオリティ**
- より良い医療効果を実現するイノベーションへの取り組み
 - 早期発見・早期治療の重要性に対する認知度向上への取り組み
- その他**
- 企業市民活動および慈善活動

貢献するSDGs



フォーカスエリア2: コンプライアンスおよび製品の品質安全性への注力



医療機器を提供する企業として、
最優先すべきは「患者さんの安全」です。
腐敗防止などのコンプライアンス遵守および、
製品の品質安全性確保のための各国法規制に
確実に適合するように努めています。

重要課題（マテリアリティピックアップス）

トッププライオリティ ■製品、サービス、ソリューションの品質と安全性の確保

目標・KPI

適時適切なESG情報開示（SASB基準*に沿った開示）

*SASB基準：SASB (Sustainability Accounting Standards Board:米国サステナビリティ会計基準審議会) が公開した非財務情報公開の標準化に向けた基準。業種別の開示スタンダードが策定されている。

ハイプライオリティ

- 事業活動倫理とコンプライアンスの徹底遵守
- プライバシー、情報セキュリティ、サイバーセキュリティの保全

その他

- 税の透明性
- 倫理性・誠実性に基づいたマーケティング活動
- リスク管理・危機管理の強化とリスク認識を意識した企業文化の醸成
- 製造技術改善に向けたイノベーションへの取り組み

貢献するSDGs



フォーカスエリア3: 責任あるサプライチェーンの推進



医療機器の安定的な提供は、社会における医療の安定的供給に不可欠です。製品の安定的提供の責任を果たすと同時に、サプライヤーとともに、環境や人権などの社会課題にも取り組んでいきます。

重要課題（マテリアリティトピックス）

トッププライオリティ ■ サプライチェーンのリスク軽減と耐性の確保

目標・KPI

年次評価／モニタリング：

サプライチェーンにおけるリスク評価・モニタリングの実施

ハイプライオリティ ■ サプライチェーン管理上における人権尊重へのコミットメント

貢献するSDGs



フォーカスエリア4: 健やかな組織文化



当社が目指す健やかな組織文化とは「私たちの存在意義を実現するため、従業員一人ひとりがベストな状態でパフォーマンスを発揮できる文化」と定義し、その実現に向けたさまざまな施策に取り組んでいます。

重要課題（マテリアリティトピックス）

トッププライオリティ ■ インクルージョン

日本*における社員の育児休業等取得率

2026年3月期までに実現：**100%** *オリンパス株式会社を対象

目標・KPI

“ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン”の重要課題 (Materiality Topic)を“インクルージョン”に発展させるにあたり、適切な指標及び目標の設定を行うべく検討を進めています。 指標・目標は地域によって異なることがあります。

ハイプライオリティ

- 従業員の能力開発とエンゲージメントの向上
- 労働安全衛生の確保と人権尊重への取り組み

貢献するSDGs



フォーカスエリア5: 社会と協調した脱炭素・循環型社会実現への貢献



気候変動は地球環境を脅かす
重大な課題であるとともに、当社の事業活動にも影響を
およぼす課題であると認識しています。
今後カーボンニュートラルの達成に向けて、
各種取り組みを推進していきます。

重要課題（マテリアリティピックアップス）

トッププライオリティ

- Scope1/2カテゴリでの脱炭素への取り組み
- Scope3カテゴリでの脱炭素への取り組み
- 循環型社会実現へ貢献する製品ライフサイクル管理

目標・KPI

ネットゼロ：

2040年3月期までにScope1/2/3の
温室効果ガス排出量を実質ゼロに

カーボンニュートラル：

2031年3月期までに自社事業所からの
CO2排出量（Scope1/2）を実質ゼロに

ハイプライオリティ

- 水資源と廃棄物の適切な管理
- 気候変動リスクへの対応

その他

- 環境関連の情報開示の透明性確保

貢献するSDGs



フォーカスエリア6: コーポレートガバナンス



当社は長年にわたりステークホルダーの皆さまから
信頼される企業であり続けるために、
コーポレートガバナンスの強化に注力してきました。
当社がサステナブルであるために極めて重要な課題と
認識し、今後も継続して強化に努めます。

重要課題（マテリアリティトピックス）

トッププライオリティ ■コーポレートガバナンスと情報開示の透明性確保

目標・KPI

エンタープライズリスクマネジメント：
一貫性・継続性を確保したグローバルでの実施

その他

■多様なステークホルダーとの対話

貢献するSDGs

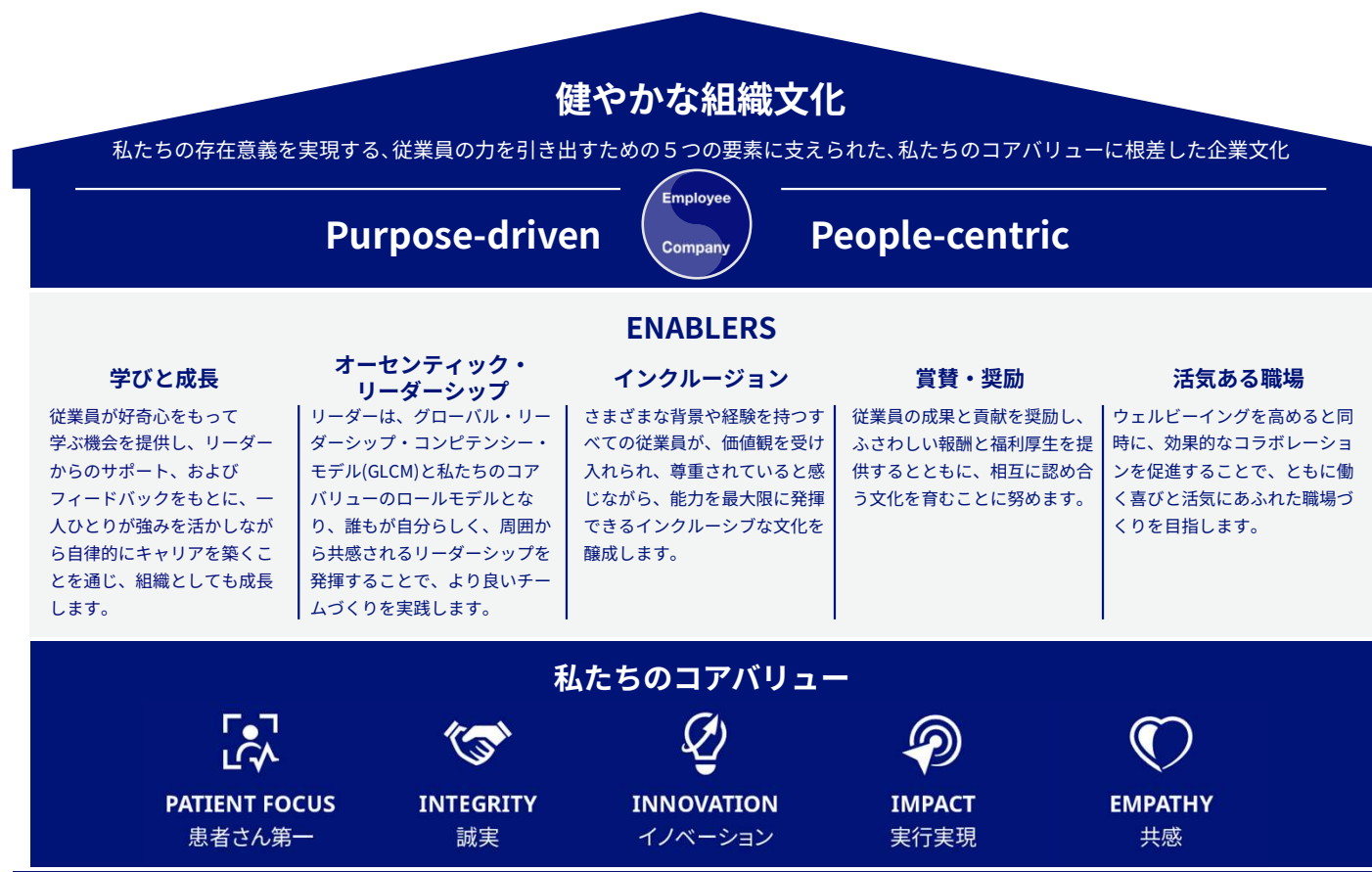


健やかな組織文化 醸成に向けて

05



企業文化における進化



健やかな組織文化

当社が目指す健やかな組織文化とは、私たちの存在意義である「世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現」のために、従業員の力を最大限に引き出す企業文化を創造するというオリンパスのビジョンそのものです。コアバリューを体現し、それに沿った行動をとることが、健やかな組織文化の醸成の土台となります。

企業文化を醸成し、私たちの存在意義を実現するためには、“People-centric”（お客さまや患者さんのことと同様に、従業員一人ひとりのことを第一に考える）の視点に立ち、世界中のお客さまや患者さんに、より良いサービスや価値を提供できる組織運営を実践していくことが、何よりも重要と考えています。

従業員エンゲージメントとエンゲージメント調査

2021	コアバリューサーベイ <ul style="list-style-type: none">▪ フォローアップ施策：それぞれの地域でサーベイから抽出した課題を改善するためのアクションを実行
2022	コアバリューサーベイ・チェックイン（中間調査） <ul style="list-style-type: none">▪ FDAから警告書を受領▪ 総合的な品質変革プログラム「Elevate」を開始
2024	コアバリュー改訂 <ul style="list-style-type: none">▪ 新たなコアバリューを浸透させる取り組みを実施



エンプロイリスニングプログラム

- 従業員が積極的に発言することを支援し、そのフィードバックを有意義な行動につなげることを目指す

「コアバリューサーベイ」の結果を踏まえ、施策を展開し、進捗を管理しています。全社的には、執行役による 現場訪問や、意思決定、プロセスの最適化、従業員のワーク・ライフ・バランスのフォローアップ、働き方改革のグローバルガイドラインの策定・実行などの取り組みを行ってまいりました。

2022年11月には、コアバリューサーベイ・チェックインを 実施し、組織の現状を確認するとともに企業文化と従業員エクスペリエンスを向上させるための活動を強化しました。

今後の取り組みとして、従来のアンケート調査にとどまらない、包括的で全社的なエンプロイリスニングプログラムの確立に取り組んでいます。このプログラムは、従業員が積極的に発言することを支援し、そのフィードバックを有意義な行動につなげることで、ポジティブな変化を促進し、健やかな組織文化の醸成に向けて、継続的に取り組むことを目的としています。

プロフェッショナル人材の育成と地域を超えたコラボレーションを支える能力開発・研修

	私たちの存在意義、 価値観とカルチャー	個人および プロフェッショナル としての成長	部門別／ 職種別スキル
リーダー	・オンボーディング・ セッション	・リーダーシップ・ プログラム	
個人	・コアバリュー浸透プロ グラム ・Inclusion トレーニング	・Global 360フィードバック ・ビジネススキル ・語学コース	・製品・営業トレーニング ・製造および修理拠点 従業員向けトレーニング ・マーケティング・ アカデミー
チーム		・異文化理解ワークショップ ・キャリアワークショップ	

オリンパスグループは、リーダー、個人、チームを対象に、グローバルおよび各地域で幅広い能力開発の機会を提供しています。

また、従業員一人ひとりがプロフェッショナルとして、個人としてのスキルを向上させるために、お互いに学び合うことに重点を置いています。

会社情報

06



会社概要

商号	オリンパス株式会社 (Olympus Corporation)
上場市場	東京証券取引所プライム市場 (証券コード：7733)
設立	1919年10月12日
本社	〒192-8507 東京都八王子市石川町2951
資本金	1,246億円 (2025年3月現在)
連結売上高	9,973億円 (2025年3月期)
連結従業員数	29,297人 (2025年3月現在)
企業ウェブサイト	https://www.olympus.co.jp/



主な海外拠点と製造拠点

米国：製造拠点：2拠点

センターバレー（HQ）

ブルックリンパーク

製造品目：外科エネルギーデバイス

レッドモンド

製造品目：気管支鏡関連デバイス
肺疾患関連製品

ウエストボロ
（治療機器事業HQ）

欧州：製造拠点：5拠点

ドイツ：ハンブルグ（HQ）

製造品目：外科硬性鏡

ドイツ：ベルリン

製造品目：高周波ジェネレーター

チェコ：プルジェロフ

製造品目：泌尿器科用デバイス

イギリス：プリマス

製造品目：医療関連製品

イギリス：サウスエンド・オン・シー

製造品目：内視鏡周辺装置
（トロリー・気腹器）

アジア：製造拠点：2拠点

中国：北京（HQ）

蘇州

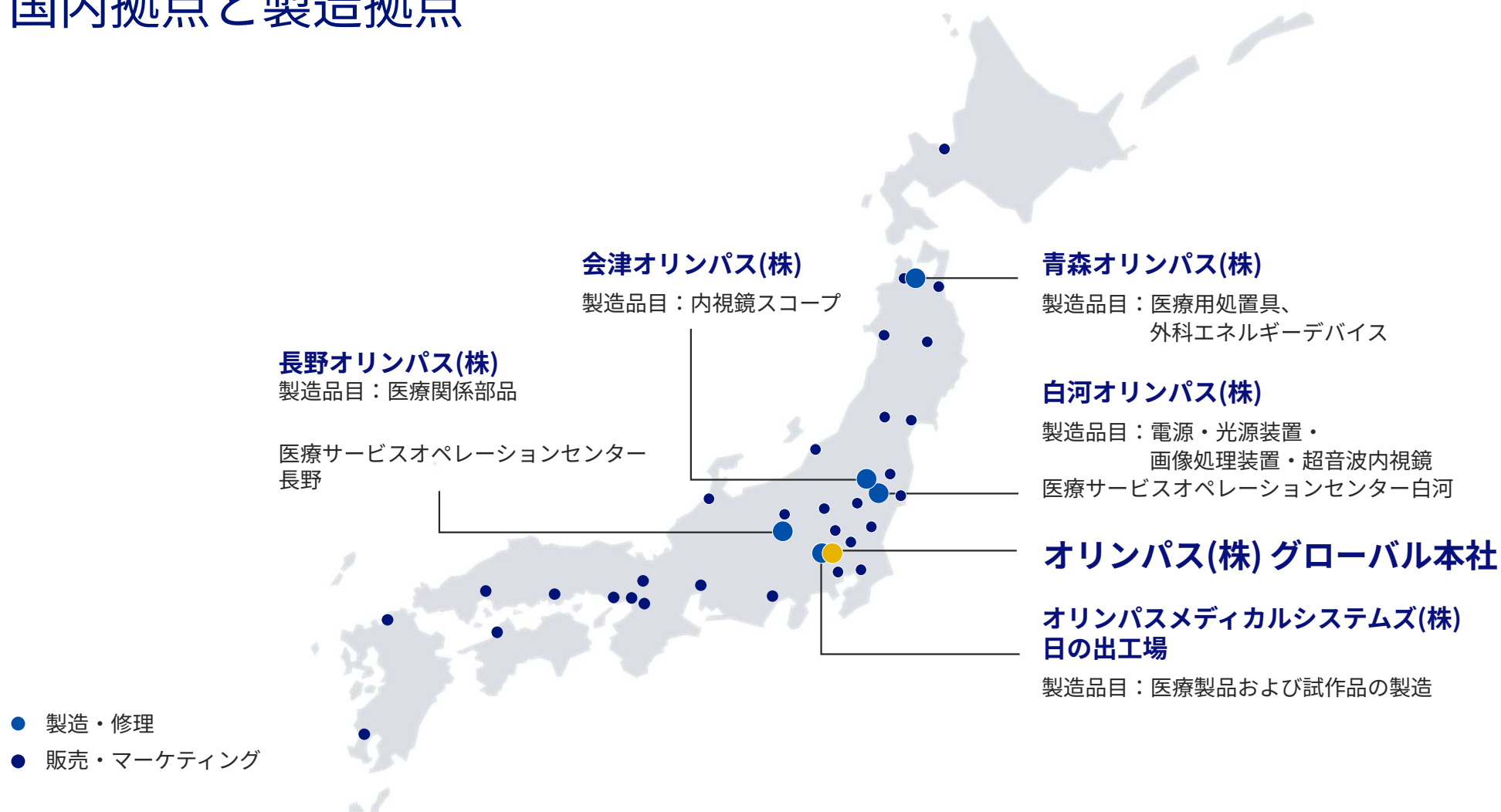
内視鏡組立

香港（HQ）

ベトナム

製造品目：処置具

国内拠点と製造拠点



執行役一覧



竹内 康雄

取締役 代表執行役
会長兼ESGオフィサー
(ESG担当役員)



ボブ・ホワイト

取締役 代表執行役
社長兼CEO (最高経営責任者)



ジョン・デ・チェペル

執行役
チーフメディカルオフィサー
(最高医学責任者)



フランク・ドレバロウスキー

執行役
ガストロインテスティナル
ソリューションズ
(最高消化器内視鏡ソリューション
事業責任者)



泉 竜也

執行役
チーフファイナンシャルオフィサー
(最高財務責任者)



ガブリエラ・ケイナー

執行役
チーフストラテジーオフィサー
(最高経営戦略統括責任者)



小林 哲男

執行役
チーフマニュファクチャリング
アンド サプライオフィサー
(最高製造供給責任者)



倉本 聖治

執行役
サージカルインターベンション
ソリューションズ
(最高サージカルインターベンション
事業責任者)



サヤード・ナヴィード

執行役
チーフテクノロジーオフィサー
(最高技術責任者)



大月 重人

執行役
チーフヒューマンリソースズオフィサー
(最高人事総務責任者)



ボリス・シュコルニック

執行役
チーフクオリティオフィサー
(最高品質法規制責任者)



**ニール・ボイデン・
タナー**

執行役
グローバルジェネラル カウンセル
(最高法務責任者)

付録: オリンパスの歴史

07



オリンパスの歴史



顕微鏡旭号
を発売

1920



オリンパス光学工業に
社名を改称

1949



欧州現地法人
オリンパス・オプティカル・
カンパニー
(ドイツ・ハンブルグ) を設立

1964



ドイツ・ウィンター&
イベ社との
協業にもとづき外科用硬
性内視鏡に本格的に進出

1975

1919

創業者・山下長
(やました・たけし) により
顕微鏡の国産化を
目指し、創立。
当時の社名は
高千穂製作所
(10月12日)



1936

写真レンズ「ズイコー」を
開発し、当社初のカメラ
セミオリンパスⅠを発売

1950

世界初の実用的な
ガストロカメラ
(胃カメラ) を開発

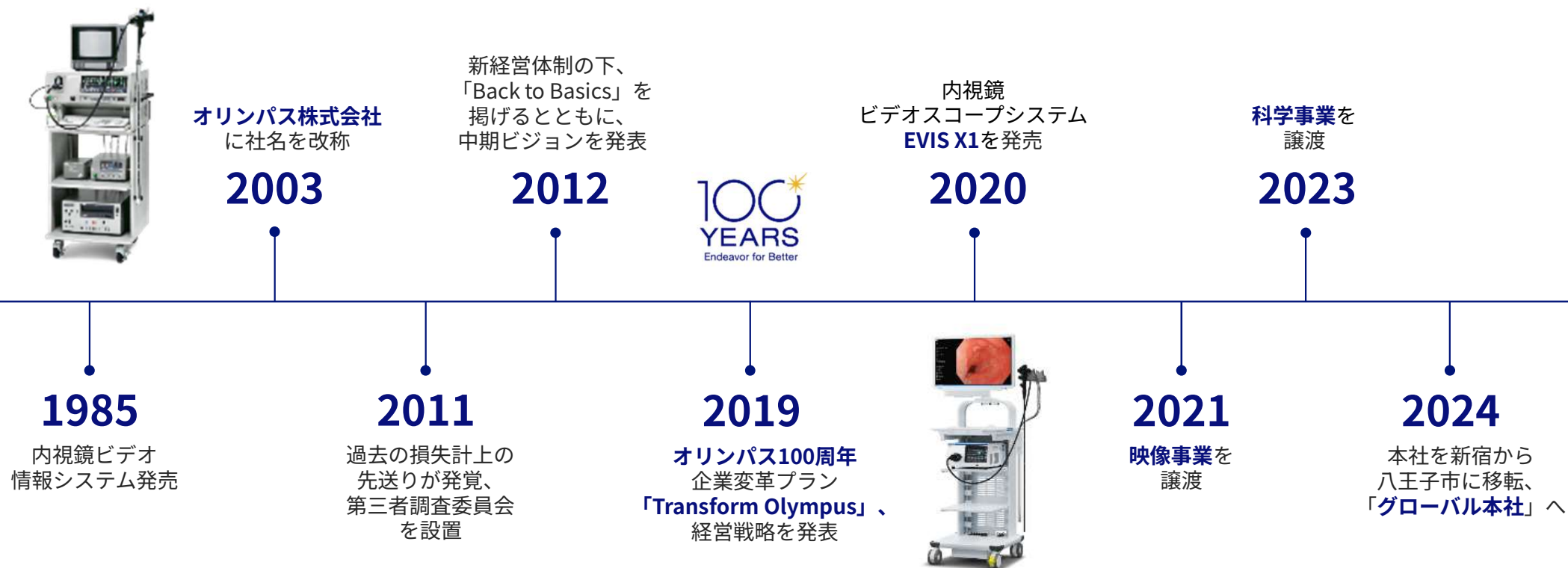


1968

顕微鏡、測定器、
医療機器分野の米国現地法人
オリンパス・コーポレーション・
オブ・アメリカ設立



オリンパスの歴史



OLYMPUS

The logo consists of the word "OLYMPUS" in a bold, dark blue, sans-serif typeface. A thin, horizontal yellow line is positioned directly beneath the text, extending across its full width.